

国内進学説明会の状況

工学部 佐藤 道郎

平成11年9月5日に大阪市の「マイドームおおさか」で留学生への進路相談が催された。本学からは留学生係の中島係長と私が参加した。かなり広い部屋に、三畳程度の広さを持ち長テーブル一つと向かい合うように配置された六脚の椅子が用意されているブースが数十校分セットされていた。開場の少し前に会場に行き、前もって送ってあった本学のパンフレットなどの資料をテーブルの上に並べ、開場を待った。開場とともに多くの留学生たちが入ってきた。私たちの区画は比較的入り口の近くであったが、素通りされることが多かった。参加した留学生は殆ど中国系の学生ばかりであった。

ブースによって客の入りはまちまちであった。私の印象では大阪で開催したということもあろうが、関西の有名私大が多くの留学生を集めていたようであった。残念ながら本学は集まりが良いとはとても言えるものではなかった。

私たちのところへは20名程度の留学生が寄っていったが、台湾の学生1名のほかは全て中国の学生であった。皆、意思が強くはっきりしていそうな学生たちであった。自分が目指していることが出来そうな学部学科があるか、ということからもっと詳しく自分の関心を持っている分野にどんな先生がいるか、といったことまで尋ねてきたが、どちらかというと私自身にとって馴染みの薄い分野に関する質問が多く、十分には対応できなかった。新しい研究者総覧には研究内容のキーワード索引が付いたのでこれからはもっとうまく対応できると思われる。

留学生の知りたがっていた質問の一つは募集要項と日程に関するものである。これに対して「鹿児島大学私費外国人学部留学生募集要項」と「入学者選抜実施日程」を用意していったわけだが、幸いにも(?)漢字圏の学生ばかりであったためこれで用が足りたものの、非漢字圏の国の学生が多かったら話を聞いてるときは分ったような気になったとしても後から見たらさっぱり分からないということにならないかと少し気になる。非漢字圏の留学生を抱えていると留学生が眼を通さなければならぬあらゆるものには英語版を用意してほしいとかねがね思っているが、留学生の受入に躍起になっていながらそのような点にまだ配慮が届いていない気がする。何も忙しい本学のスタッフに翻訳をしてもらわなくても外注することを考えて、受入教官のサービスのうちであるなどという意識を捨て、留学生が自分に関わる事柄には自分で対処できるようにしてもらいたいと思う。これは留学希望者に対してはもっと大事であると思う。

それから、ブースのところに漢字とローマ字の大学名と校章の入った見栄えのする旗のようなものがほしいと思った。とにかく一目で惹きつけることがあらゆる部分で大事になってきている。この説明会も大学間の戦場みたいな一面を持っている。次回は何とか鹿大のブースに人だかりが出来るようにと期待している。